

(1) 中村小学校

学 校 長 宮崎 由紀子
校内研究代表者 才市 美奈

1. 研究主題

目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方
—学習過程の工夫と情報の扱い方に関する指導を通して—

2. 主題設定の理由

本校は、高知県教育委員会指定「教育課程拠点校」として、国語科を中心に平成22年度から平成30年度までの9年間研究実践を重ね、児童の姿から検証を行いながら、授業の工夫改善に努めてきた。その中で、昨年度は、「新学習指導要領」を踏まえ、「付けたい力を確実に付ける」授業を実践するために、研究主題を「資質・能力を育む国語科授業の創造」とし、副題を一質の高い言語活動を通して一と設定し、研究を進めてきた経緯がある。

さて、新学習指導要領において、国語科で育成すべき「知識及び技能」として、新たに「情報の扱い方に関する事項」が新設されている。また、中央教育審議会答申においては、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である」と指摘されている。情報化社会は今後、益々進化発展し、膨大な情報の中から目的に応じた情報を取捨選択したり、情報と情報との関係を捉え、発信したいことを表現したりする力が必要である。

本校児童は、これまでの全国学力・学習状況調査において、「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」等の問題で正答率が低く、目的に応じて情報を読み、自分の考えを明確にして書くことに課題がみられる。実際の授業でも、文章の内容を的確にとらえたり、自分の考えをまとめ伝えたいことを明確にして書いたりすることが弱いという現状があり、「文章を読んで必要な情報を取捨選択する力」「自分の考えを広げたり深めたりして、適切な言葉で表現する力」が十分身につけているとは言えない。

このような背景や本校児童の実態から、研究主題を「目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方—学習過程の工夫と情報の扱い方に関する指導を通して—」とした。国語科「書くこと」の指導において、自分の思いや考えを適切に表現していく姿を目指して、言葉による見方・考え方を働かせ自分の考えを明確にしていく学習過程の工夫と、文章による情報を的確に理解し自分の考えの形成に生かす学習指導に焦点化して研究を進めることで、課題を克服することができると考えている。

3. 研究の進め方

<研究内容>

① 学習過程の工夫

- ・身に付けさせたい資質・能力の明確化と最適な言語活動
- ・目的や必要性を感じられる課題設定
- ・言葉を通して自分の思いや考えを形成する学習過程
- ・言葉による見方・考え方を働かせ、思考を深める発問
- ・主体性を持たせたり有用性を実感させたりする振り返り

② 情報の扱い方に関する指導

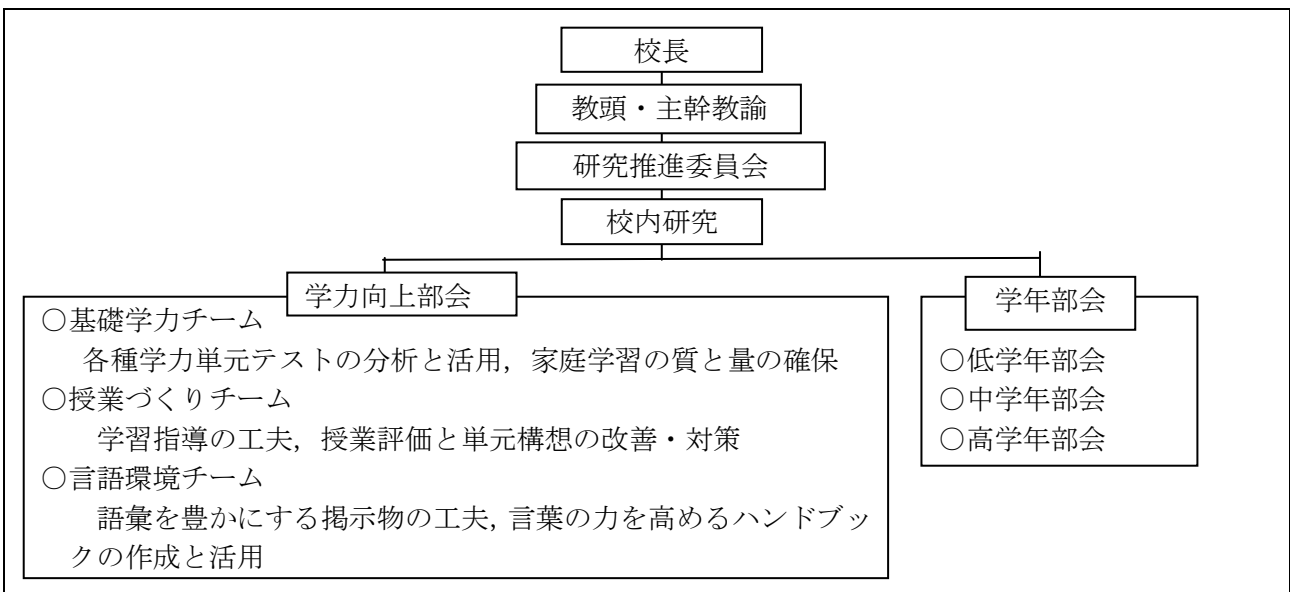
- ・必要な情報を取捨選択する学習指導の工夫
- ・選択した情報と自分の経験・知識を統合させ、考えを形成し深める指導の工夫
- ・語彙の拡充

<研究方法>

- 一人年間3回公開授業（全校研または中間発表会授業＋見て見て授業2回）を行う。
- ・各ブロックで研究主題に沿って教材研究，単元構想図の作成・検討，先行授業や本時の模擬授業等を行い，研究授業を公開する。
- ・研究授業後の協議では，成果と課題を明らかにし，授業改善を図り，次時につなげる。
- ・「見て見て授業」は，学年またはブロックで授業を見合う。「授業構想シート」または，略案。
- ・特別支援学級も公開授業を行い，教員の児童理解を図る。

<研究組織>

- 校内の3部会「学力向上部会」，「仲間づくり部会」，「健康・体力づくり部会」の内，研究に関しては，「学力向上部会」が担う。さらに「学力向上部会」を基礎学力チーム，授業づくりチーム，言語環境チームの3つに分け協働的に研究推進する。



4. 研究の取組

①学習過程の工夫

・身に付けさせたい資質・能力の明確化と最適な言語活動

単元で身に付けさせたい資質・能力（指導事項）の明確化とその力を付けるために最適な言語活動を設定し，教材の特質を生かして単元づくりを行うことを重視してきた。その際，単元の系統性（中学校まで）を確認し，児童が言葉の力を活用しながら学びを積み上げていく既習の力とその後の学習を繋げていくことを意識して単元づくりを進めてきた。

〈5学年〉

単元名：「呼びかけよう！安心・安全な中小を目指して」

身に付けたい資質・能力

- 資料から情報を読み取り，引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，資料と自分の考えを関連付けて書く力

【知識・技能】（2）情報の整理イ 【思考力・判断力・表現力等】B ウ エ

言語活動

- 複数の資料から情報を読み取り必要なものを選択・活用して，安心・安全な学校について呼びかけるポスターを書く。

・目的や必要性を感じられる課題設定

必要感のある場面設定や身近な題材を設定することを重視し、単元づくりを行ってきた。目的・相手意識を持って学びを継続していくために、買い物という場面において似ている野菜や果物を正しく選ぶといった導入で必要性を感じる課題設定を工夫したり、単元の学習中「伝えたいことカード（相手・伝えたいことを明記）」を手元に置いて常に意識できるようにしたりして、児童が主体的に学びを進めていけるよう単元を構成してきた。

〈2学年〉

単元名：「どっちがどっち？お買い物ばっちり図鑑を作る」

導入において、似ている数種類の野菜・果物を用意し、買い物をする活動を仕組むことで、児童は課題意識を持ち、目的（正しく見分けるために）と相手（1年生にも教えてあげたい）意識を持って学習を進めることができた。



〈3学年〉

単元名：「使ってください、この絵文字！～絵文字にこめた思いとその理由を分かりやすく伝えよう～」

伝えたいことカード（誰に、どんなことを伝える）を常に手元に置くことで、目的意識・相手意識に戻りながら書く活動を進めてきた。また、伝えたい相手を児童自身で決めることで主体的に活動する姿を目指した。



・言葉を通して自分の思いや考えを形成する学習過程

単元構想において、単元終了時の目指す児童の姿を具体的に描くことで、考えの理由や根拠を基に友達と対話し、自分の考えを表す言葉にこだわって表現する授業づくりを目指してきた。また、単元で付けたい力に応じて指導事項を重点化して追加取材を位置付けたり、記述の後、構成を再検討したりする等、学習過程を工夫して進めてきた。そして、児童自身が表現を磨いていくために、記述と他者からの評価を繰り返し位置付けたり推敲チェックリストを活用したりして、自分の考えを適切に表現する力に繋げてきた。机間指導では、つまづきを把握し個別指導をすること、付けたい力に向けて授業を展開していくために、全体共有において意図的に指名すること等を意識して授業改善を行ってきた。

〈5学年〉

単元名：「委員会アピール大作戦 ～〇〇委員会の魅力はこれだ～」

本単元終了時の目指す児童の姿

- 一番伝えたいことは何か、そのためにはどんな資料が必要で効果的かを明確にしようとする姿
- 必要な情報を整理し、相手意識や目的意識を持って構成を考えながら活動報告の文章を書く姿



『4年生が必要な情報であるか』意識して書く

活動内容を表す資料

活動報告
集めたマルマカ遊具に
学校のホールやアリスビを置くためのペーパーを
集めていよます。
毎週水曜日の朝、回廊に集まってペーパーを切りまわす。
全校の来しく遊べる集まるの袋をただけにその活動が
思えばとてもやりがいがあると思います。
ペーパーのまわりが切れる時ペーパーを切る切らして
遊具を買えるようにして使えなくならないように注意して
ください。また、昔の遊具は年々減っていきまうが、なるべく
分別します。



活動報告文の一部

文章を磨こう！推敲のためのチェックリスト		5・6年生
四万十市立中村小学校 ()年()組 名前()		
チェック項目	チェックらん	
1	文字の誤字・脱字はないかな	
2	句読点の打ち方はあっているかな	
3	習った漢字を正しく使っているかな	
4	段落の始めは、行を変えて一マス空けているかな	
5	かぎっこ「」（金語文）の使い方はあっているかな	
6	主語、述語の関係は正しいかな	
7	文章の最後は、「です。ます。」「～である。～だ。」「～になっているかな。（文末表現は統一されているかな）	
8	接続語の使い方は正しいかな	
9	根拠、理由をあげているかな	
10	具体的な事例をあげているかな	
11	自分の考え、意見が明確になっているかな	
12	長すぎる文、意味がわからない文はないかな（目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりしているかな）	
13	出来事の大事なことを漏とさないように書いているかな	
14	事実と感想、意見などを区別して書いているかな	
15	数字や名前などを正しく書いているかな	
16	読み手を引きつける言葉があるかな	

推敲
チ
ェ
ッ
ク
リ
ス
ト
(
基
本
)

文章を磨こう！見直しのためのチェックリスト		3・4年生
四万十市立中村小学校 ()年()組 名前()		
チェック項目	チェックらん	
1	文字のまちがいはないかな	
2	文字のぬけてるところはないかな	
3	、や、の打ち方はあっているかな	
4	習った漢字を使っているかな	
5	かぎっこ「」（金語文）の使い方はあっているかな	
6	段落の始めは、行を変えて一マス空けているかな	
7	接続語の使い方は正しいかな	
8	主語、述語のつながりは正しいかな	
9	長すぎる文、意味がわからない文はないかな	
10	修飾語（わくする言葉）は正しく書いているかな	

必要
な
項
目
で
作
成
し
た
推
敲
チ
ェ
ッ
ク
リ
ス
ト

・言葉による見方・考え方を働かせ、思考を深める発問

言葉に着目している児童の姿を評価し、更に話したり書いたりする中で活用している姿を価値付け広げていきながら、言葉に対する意識化を図るようにした。また、児童が自ら判断したり思考を深めたりするために、「(文章の)どこから～」と問うことで、もう一度、内容を読み返し、言葉を意識しながら考えられるような発問や「どうして～」という理由や根拠を問う発問を用意する等して授業づくりを行ってきた。

思考を深める発問例

- どうして集めた情報をその部分に入れたのですか？
- 資料と関連付けていることが文章のどこから分かりますか？
- なぜその理由を意見文に取り入れたいと思ったのですか？組み立てピラミッドを使って、理由を伝えましょう。

・主体性を持たせたり有用性を実感させたりする振り返り

1 単位時間におけるめあてに呼応した「振り返りの視点」を設定することで、児童自身が学びの成果を自覚し、次の学習へつながる学習活動ができた。

〈2学年〉

自分が選んだ観点の理由やその順序をどのように決めたのか振り返りましょう。

スーパーでは、切ったりしんを調べたりするのはできないけど、色を見たりさわったりするのはできるので、その二つをえらびました。

ぼくは、同じところから先に書くことやすぐ見て分かることを先に書きました。

場面に応じて必要な観点を選んでいる

書く順序を考えている

②情報の扱い方に関する指導

・情報を相手に分かりやすく伝えるための学習活動の工夫

目的に応じて必要な情報を収集し（養護教諭・学校事務職員・担当教員等への取材や書籍・インターネット・パンフレット等から情報を取り出す）、比較・分類・関連付けながら伝えたいことと資料を対応させ、必要な情報を取捨選択していく学習活動を展開する授業づくりを行った。また、構成の順序を考えたり、まとまりごとに整理して書いたりする力につなげるために表を工夫したことも効果的だった。



養護教諭へ取材



資料選びの話し合い

くらべて分かるたことをひょうじょうをつけてせりしよう！

①	色	きみどしきみどし色
②	かたさ	やわらかかたさ
③	大きさ	きびつとくさつと 同じ
④	円	丸い丸い
⑤	手ざわ	かさかさざりざり
⑥	はらば	ツギツギかたさ
⑦	かたさ	かるいおも

表の工夫

・選択した情報と自分の経験・知識を統合させ、考えを形成し深める指導の工夫

目的に応じて内容を捉えるために、低学年では対応する部分を線でつなぐ、印を付ける、色分けする、中学年では内容を比較・検討して選択するために付箋を活用する、ピラミッドチャートなどの思考ツールを使う等して、選んだ情報と自分の経験や知識を結び付けて、高学年では条件（内容や分量、字数など）に合わせてつなげ、まとめるといった学習指導を行ってきた。また、生活科（観察）と関連付けて情報収集を行ったり、総合的な学習（題材：地域の活性化を目指して）と関連付けて単元を構想したりして考えの形成につなげてきた。



付箋を使って書く情報を選んでいる3年生



生活科での観察

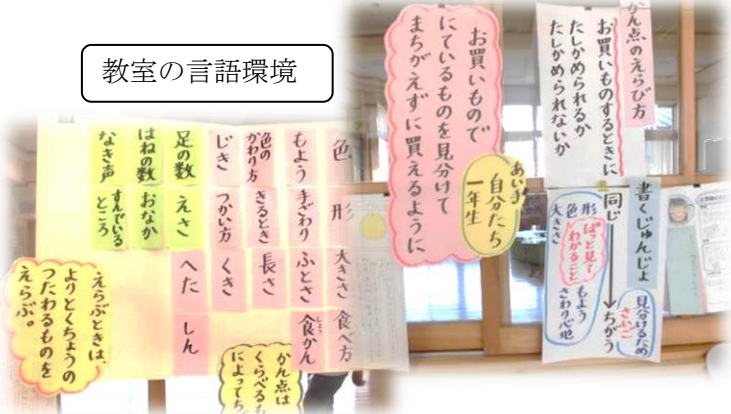
・語彙の拡充

○語彙指導の充実

学習の中で必要となる語句をまとめた「言葉の宝箱」を児童が言語活動の中で使うことによって、語句の量を増やしたり、自分の考えを伝えるための適切な言葉を選んで書いたりする姿が見られるようになってきた。学年に応じた「言葉の宝箱」を活用することで、多様な語句を日常生活でも使えるようになり、語彙を拡充している。また、学習のポイントや獲得した書き表し方を教室に掲示し、言語環境を整えることで、自分の伝えたいことに適した表現を選んで用いることができるようになってきた。



『言葉の宝箱』



教室の言語環境

○言語環境の工夫・改善

児童が言葉に関心を持ち、楽しみながらも豊かに語彙力を向上させていく姿を目指して、学力向上部会の言語環境チームが中心となって、校舎内各階の「言葉の広場」コーナーに掲示物を作成し、適宜新たなものに差し替えながら言語環境を整えてきた。これまで、漢字クイズや言葉集め、クロスワード（食べ物、様子を表す言葉、〇月に関連する言葉等）、同音異義語、ことわざ等を掲示してきた。



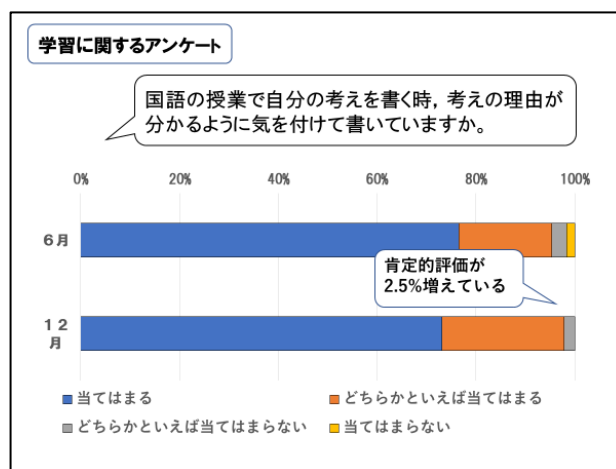
言葉の広場



5. 今年度の成果と課題

<成果>

- ・必要感のある場面設定や他教科等との関連を図りながら、目的意識・相手意識を明確にした単元づくりを行うことができてきた。
- ・第一次で既習の力を使ってまず書いてみる、「上手く書けない」、「困った」という課題意識から教材で学んでいく必要性を持たせた導入や螺旋的な学びを位置付けた学習過程の工夫を意図的に行うようになった。
- ・学習中の児童の姿やアンケートの結果から、書くことに対する意欲が高まってきたと感じている。意識調査、学習に関するアンケートの設問「国語の授業で自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的評価で答えた全校児童は6月は95.4%、12月は97.9%へと2.5%増え、「当てはまらない」と否定的評価をした児童は0となっている結果からも分かる。



<課題>

- ・単元で身に付けたい資質・能力に応じた最適な言語活動の設定はまだ不十分である。
- ・本時で付けたい力と学習活動にズレがあり、1単位時間の目標の達成が十分できているとは言えない。
- ・「書きたい」という児童の意欲の高まりに個人差があり、能動的な学習活動にしていくための単元構想にしていく必要がある。
- ・国語科を中心とした単元配列表の活用が十分できていなかったため、国語科で付けたい力と他教科等との関連を図っていくために、「書くこと」に重点を置いたカリキュラム表を作成し、活用していくことが課題である。

※単元構想図（2学年）を指導案集に掲載